

郵便集配区先で見る水草栽培の実態

東 義 己

(昭和郵便局第一集配課)

1. はじめに

職業柄配達先などで、各種の観賞・園芸植物を見る機会が多い。そうした植物の中でも特に水草栽培の実態について述べてみたい。

私の担当配達区域は、名古屋市昭和区内の西部地区である。地域の状況は商業・工業・住居地の混在地区であるが、一般的に東部と比較した場合には敷地内に庭が少ない傾向が見られる。したがって植物は植木鉢、及び容器等を利用して栽培している家屋などが多く目につく。また、あまり大型の樹木が見られないのは住宅事情を反映しているのであろうか。

2. 水草栽培の種類

調査は、1981年7月より同年12月まで約6ヶ月間に渡り断続的に暇を見ては行った。結果は次の通りである。

(1) 浮葉植物

スイレン類(ヒツジグサを含む)・ジュンサイ

(2) 沈水植物

マツモ・コカナダモ・マリモ・オオカナダモ・クロモ

(3) 抽水植物

オモダカ・クワイ・ハス ヘラオモダカ・米・花ショウブ類(キショウブを含む)・ホソイ・ホシクサ

(4) 浮漂植物

ホテイアオイ・アオウキクサ

(注) 園芸栽培品種を含む

調査中に犬に吠えられたり、不審者と間違えられたりもしたが、そうした苦勞よりも意外にも結果を見ると水草の栽培者の少なさが体験的に理解出来た。

3. まとめ

一般的に、自然以外の家庭等で水草を観賞栽培する場合は各種の制約がある。それ等の許容条件内で栽培しようとするれば水草生育過程において種類の範囲も限定されるであろう。その特徴も今回の調査結果からも判断出来るのではないだろうか。

前述したように、都市部であるが故に環境は水草にとっては厳しい条件となっている。そうした社会環境の中で水草栽培をしている動機は如何なる理由であろうか。

(1) 花の美しさで栽培している

(2) 花が好きだから

(3) 金魚・メダカ等を飼育している為に

(4) めずらしい植物だから

(5) その他一おもしろい植物だから・研究用

大体以上の理由が判明した。

そこで、水草の種類で比較すると沈水・抽水植物が浮葉・浮漂植物を量的に凌ぐ結果となっている。此等の理由は、いわゆる花を楽しむ場合と金魚等の飼育上の関係から栽培されているためであろう。更に栽培世帯の内訳は事業所19・1%、工場10・6%、一般世帯70・3%で圧倒的に普通家庭が多かった。

水草を問わず、全ての植物栽培を通じて地域や家屋の美観、また心の潤いに役立てれば植物と人間の調和が定着したものと理解出来るであろう。しかし、松・阜月・菊・あやめなどの草木全体と比べて水草植物の栽培者の少なさは、将来の啓蒙宣伝のあり方として指摘出来る課題ではないだろうか。

参考文献

日本水生植物図鑑 北隆館

原色植物観察図鑑 保育社

新版日本原色雑草図鑑 全国農村教育協会